

# 「水害の先の未来」語り合う

芦北町商工会青年部がイベント

## 被災経験の記録冊子 発刊記念

### 熊本豪雨

5年

2020年7月の熊本豪

雨で被災した芦北町商工会青年部会員の経験をまとめた冊子の発刊記念イベントが4日夜、熊本市中央区の鳶屋書店熊本三年坂であり、青年部メンバーや大学教授らが「水害の先にあつた、つながりの未来」をテーマに語り合った。

青年部は24年11月から、商工会関係者や学生を対象に災害スタディツアーを開催。学びを深めてもらうため、非売品の冊子「AS HIKITA Journal ai（アシキタ ジャーナール）」を作成し、参加者に配布している。

イベントには青年部の綱田圭吾部長（42）、冊子作成

に協力した熊本県立大の柴田祐教授（54）、崇城大の馬頭亮太助教（39）が参加。青年部の一川大輔副部長（42）が司会を務めた。

熊本地震や熊本豪雨の被災地復興に携わった柴田教授は「行政や自治会の記録誌はあるが、商工会が作ったものは数少ない。複数のローカル事業者の記録は貴重」と語った。馬頭助教は「なりわい再建のノウハウ本としても価値がある。この冊子をきっかけに次のアクションが生まれることを願う」と話した。

綱田部長は「被災して困った人の心のよりどころになればうれしい」と述べた。学生ら約50人が聴いた。

かま揚げしらす丼や不知火牛カレーなど芦北の特産品を使った料理の試食会もあった。（久保田尚之）